

新収蔵庫棟コレクションナリウムの誕生

コレクションナリウム設立の経緯

自然史博物館の大切な役割の一つに、自然環境に関する資料や標本の収集活動があります。自然は気候変動や開発行為、外来生物の侵入など外部の環境変化により様々な影響を受け、時と共に姿を変えてゆきます。今、私たちの身の回りにはある自然が、未来永劫そのままの姿であるわけではありません。企画展示等に活用するのは勿論のこと、自然について正しい知識を持ち、その移り変わりを資料として残して後世に伝えるために、継続した資料の収集活動と適切な保全・管理が必要です。ひとはくには、ジーンファームと呼んでいる絶滅危惧植物の域外保全を行う圃場も併せると全部で7つの収蔵庫施設がありますが、開館以来30年をかけて収集してきた標本・資料は現在200万点を超え、どの施設も満杯になっています。そこで、ひとはくの開館30周年にあわせて新収蔵庫棟コレクションナリウム(資料(collection)+場所(arium)を示す造語)を建設・整備し、資料収蔵スペースを拡充することになりました。

コレクションナリウムの機能

コレクションナリウムの果たすべき機能として、以下の3つが挙げられます。1. 全ての維管束植物標本、鳥類や哺乳類の本剥製(一部)、昆虫標本(一部)を収蔵する。2. 維管束植物の標本制作から収蔵までの一連の作業を行う。3. 来館者に資料収集の意義と標本の価値を伝えるとともに、博物館にやって来た高揚感を高める。建物は3階建てで、1階には無料の展示エリアを設けています。2階は植物標本収蔵庫、3階は機械室になっています。1階展示エリアにある収蔵庫と展示を兼ねたコレクションギャラリーには、ガラス壁で覆われた空間に鳥類剥製と昆虫標本を配架します(写真1)。ギャラリーの室内は収蔵庫と同じ恒温恒湿環境を保つように設計されており、標本が収蔵されている様子を外からご覧いただけると同時にしっかりと剥製や標本の保管ができる、「魅せる収蔵庫」です。ギャラリーでお見せしている剥製類は収蔵資料のごく一

部で、残りは本館の生物系収蔵庫に収蔵されています。常設展示エリアには特注した展示什器を配置し、博物館資料の価値とその活用方法について様々な側面から易しく解説しています(写真2)。25万点の植物標本デジタル画像を検索できるタッチパネルも設置されています。1階にはその他、セミナーや講義に使用するワークルーム、資料の撮影を行うスタジオ(写真3)や植物標本制作室等があります。博物館にやって来たワクワク感をさらに後押しできるように、1階外側の見え方にも工夫を凝らしています。建物の道路側壁面には薄いながらも展示空間があり(写真4)、ひらべったい生物や標本を展示する予定です。また建物の周囲には、教科書に載っている岩石類を配置します。2階の標本収蔵庫は通常非公開ですが、年に数回程度、バックヤードツアーを開催する予定です。個別に植物の調査研究のため標本閲覧を希望される方は、博物館までお申し出ください。

おわりに

コレクションナリウムの主な機能は資料を納める収蔵庫、資料収集の意義や価値を伝えることにありますが、博物館の建物の中で一番フラワータウンの中心に近く、目立つ場所に出来たため、博物館の顔としての役割も担っていきます。今後はコレクションナリウムや周辺の芝生広場や駐車場でミニコンサートやファーマーズマーケットなどのイベント開催を企画し、まちの賑わいを演出していければと考えています。

コレクションナリウムが、博物館の役割や機能についてより深く知っていただく場、上手に使いこなして楽しんでいただける場として育っていくように願っています。

高野 温子(系統分類研究グループ)



写真1 コレクションギャラリー



写真2 常設展示エリア



写真3 スタジオ



写真4 平べったいギャラリー